萬鉄五郎記念美術館
KONOMA
木の間通信

東和エリア
美術ニュース
no.12
2014.
5月号

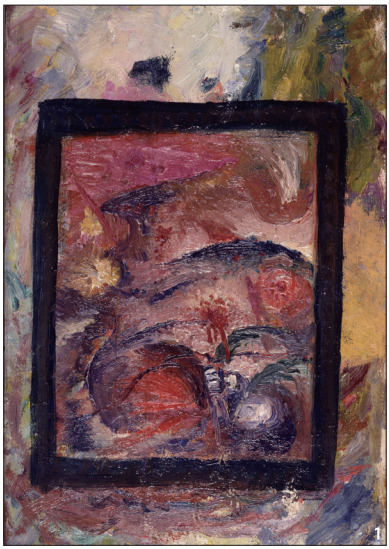
開館30周年記念

萬鉄五郎 －生命（いのち）の爆発－ 展

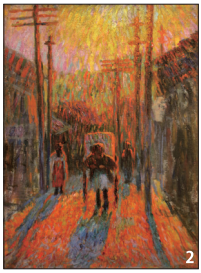
2014年4月19日（土）～6月29日（日）

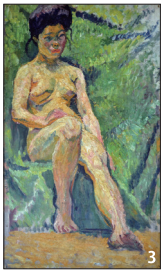
萬鉄五郎記念美術館は、今年5月1日に開館30周年を迎えます。30年の間に、多くの方々の協力により萬鉄五郎作品や資料を収集し、多角的に萬を検証してきました。

萬は芸術の意義について、仏教用語を用いて刹那的に爆発することが尊いと語り、永久に爆発し続ける画家にとって油彩や水彩、水墨の別はなく、ただ何をもってしても生命を爆発させることが芸術だと語っています。開館以来収集してきた当館のコレクションを中心に、爆発し続けた萬鉄五郎という画家の生きざまを検証します。



【休館日】月曜日（祝日の場合はその翌日）
【開館時間】8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）
【入館料】一般600円、高校・大学生400円、小・中学生250円 ＊20名以上の団体各50円引





1.《心象風景》 油彩・板 1912年頃 萬鉄五郎記念美術館蔵
2.《落暉（荷車引きのいる風景）》 油彩・画布 1912年頃 公益財団法人総合花巻病院蔵
3.《裸婦習作》 油彩・画布 1912年頃 公益財団法人総合花巻病院蔵

Logo design / 杉本吉武

第34回 萬鉄五郎祭

2014年5月3日（土・祝）　●会場：萬鉄五郎記念美術館周辺

《式典》　日時：５月３日（土・祝）　14:00 ～ 14:30　会場：土沢幼稚園講堂（美術館隣地）

《茶会》　日時：５月５日（土・祝）　10:00 ～ 15:00　会場：萬鉄五郎記念美術館前

お茶券：800円（第1・2席共通、美術館入館料含）　実施団体：東和町茶道研究会

《写生会展示会》　会期：４月28日（月）～５月９日（金）　9:00 ～ 17:00

会場：花巻市立東和図書館ロビー（花巻市東和町安俵6-90）

アート＆クラフト＜土澤＞マーケット

2014年5月3日（土・祝）～4日（日・祝）　●会場：萬鉄五郎記念美術館＆土澤商店街

美術作品・工芸作品、手作りの作品のお店200件が大集合

●時間：10:00 ～ 16:00

●問合せ先：街かど美術館 土澤マーケット事務局（キクヤ薬局内）　Tel.0198-42-2632

覆面アーティスト掘りだし市

2014年5月1日（木）～5月10日（土）　●展示会場：にっち(Niche)〈旧ぷると〉

アート作品を自分の目で見て感じる気持ちを大切に、ワクワクするようなアート作品の販売。5,000円、8,000円、10,000円という販売額を設定し、作家の名前を伏せて作品そのものの魅力だけでアートを選ぶ場です。購入希望者は、これぞと思う作品に投票し、希望者が複数の場合は、抽選で購入者を決めます。売る側も買う側も遊び心いっぱいで参加できる掘り出し市です。

●展示会場：にっち(Niche)

岩手県花巻市東和町土沢８-115 こっぽら土澤102号

●時間：10:00 ～ 17:00

●問合せ先：街かど美術館実行委員会事務局

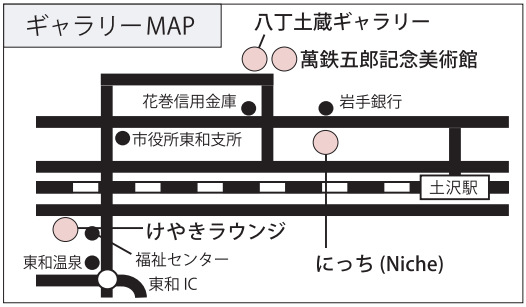
岩手県花巻市東和町土沢８-95「賑わいステーション」内

電話・FAX／ 0198-29-5959

メール／ purupurupurut@gmail.com

美術の街「土沢」ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてみませんか。



萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー

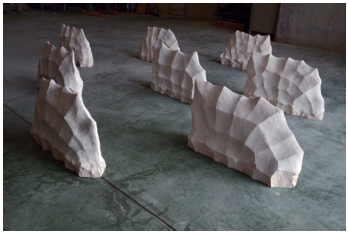
花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30　月曜休（祝日は翌日）　入場無料

iwate コンテンポラリーアート

虎尾 裕
—山並み— The mountain range 展

4月19日（土）～6月29日（日）

自然をモチーフとした石彫の作品展



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内
tel.0198-42-3205
10:30～19:00（最終日は16:00まで）
入場無料

菊池テル 展

4月2日（水）
～4月30日（水）

見に来る人がみんな元気になる絵画展

阿部龍一 展
～うぶすな～

5月1日（木）
～5月31日（土）

みちのくの地母神、あべワールド全開！

金井保憲 展

6月1日（日）
～6月30日（月）

もうベテラン画家、けやき久々登場

喫茶「八丁土蔵」

萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。　営業時間：10:00 ～ 16:00（lo.15:30）

丁字路

館長コラム

芸術は爆発

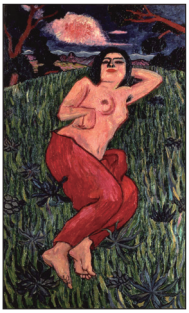
岡本太郎が１９７０年代に「芸術は爆発だ！」とテレビで叫んで人気を博し、彼のキャッチフレーズとなり、流行語にもなった。「べらぼうなもの」を作ると言い「ピカソを超える」ことを目標にした。

しかしすでに、わが萬鉄五郎は50年も前に「芸術は刹那的に爆発する時が尊いのだ」（萬鉄五郎「水彩画と自分」『みづゑ』大正12（１９２３）年10月号）と述べている。つまり、瞬間、瞬間に自己の内部から湧き出る感動や閃きを燃やすことが、芸術表現に必要なことだと言っている。さらに同誌に「人間の生命が爆発してすきまのない表現を要求する時必ずしも材料を考える要にはない。手近にあるどんな材料でもよい筈だ。」「只何を持ってでも爆発させさえすればよい。」と記している。表現手段がなんであれ、制作姿勢が問題だとしている。

その萬鉄五郎が、東京美術学校卒業制作『裸体美人』（１９１２年）で爆発した。27歳の時の渾身の作で、まさに従来の芸術的な枠組みからの解放を謳いあげた爆発であった。黒田清輝ら教官の不評を買ったにもかかわらず、わが国近代絵画の幕開けを告げるもので、その後の芸術の可能性を大きく広げた。

20世紀の芸術を動かした重要な画家ピカソの爆発は、26歳の時の大作『アヴィニョンの娘たち』である。この作品はピカソが、１９００年に19歳でバルセロナからパリに出て、生活の困窮のなかで、貧しい人々の人生の悲哀と憂鬱を青の色調の中に描いた「青の時代」（１９０１～０４年）をへて、明るいピンク系の色調に変わる「ばら色の時代」の１９０７年に数多くの習作を試みたあと取り組んだ代表作である。この絵の最初の構想は、バルセロナのアビニョー街にある娼婦の館が舞台であったが、訪れた水兵や女たちに、なにか意味を持たせる構想が消え、ピカソは「形体」という造形要素だけに興味がいき「物語性」を無くした。描かれた奇怪な仮面のような顔はプリミティブなアフリカ彫刻の影響を受け、画面が荒々しく分断され奥行きや立体感が失われ、西洋的遠近法が否定されている。西欧絵画が長年もっていた「文学性」をなくし、「遠近法」を拒否、画面に「多視点を導入」したのはセザンヌの影響である。それはヨーロッパの絵画に求められてきた美しさとかけ離れた、まったく新しい美術の形となった。次世代の絵画のありようを見据えたピカソの爆発であった。これを見たスタインなどのコレクターやマチスらの友人も非難したくらいで、評論家アンドレ・サイモンはこの作品を「爆弾のような衝撃」と評した。ここにピカソ様式が誕生した

萬鉄五郎記念美術館長　中村光紀



萬鉄五郎《裸体美人》

油彩・画布　1912年頃　東京国立近代美術館蔵　重要文化財

萬鉄五郎記念美術館　岩手県花巻市東和町土沢 5-135　Tel.Fax.0198-42-4405　8:30am. ～ 5:00pm.
yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp　http://www.city.hanamaki.iwate.jp/sightseeing/yorozu/　月曜休館（祝日の場合その翌日）
発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明　発行日／平成26年5月1日